

淀川水系流域委員会御中
利水・水需要管理部会御中

利水・水需要部会として意見のとりまとめをされていること、敬意を表します。

10月10日の委員会では、「検討目次（案）」を拝見させて頂きました。

「利水安全度の低下」問題は、つまるところ「水利システム全体の再検討」の問題であり、それを「水需要のソフトソリューション」と命名されたことは尤もだと思います。

河川管理者は、実はこのこと（水利権の柔軟な運用にむけた施策の必要性）にとっくに気づいていながら、あえて問題を掘り下げようとしてきませんでした。河川をめぐる「行政機関同士の角突き合い」に関わり、同時に河川管理の根幹（ダム計画の是非）に関わることからです。

今纏められようとしている淀川水系流域委員会（利水・水需要管理部会）の意見を、より重いもの、河川管理者の耳を開かせるものとするべく、「木曽川水系フルプラン問題の蓄積」を是非引き継いで頂きたいと心から願っています。

伊藤達也・金城学院大学教授の著作2つの目次のコピーを同封します。

木曽川水系個別の問題－相当に複雑で容易に理解しがたいです－を知って頂きたいものではありません。木曽川水系は、長良川河口堰－徳山ダム問題が横たわり続け、「フルプラン問題」「水需要と『利水安全度』『渇水対策』問題」に関わってきた市民・研究者の厚い蓄積があります。

問題の本質をよりの確な言葉で表現するには、やはり深い知識が必要だと感じます。すでに高い識見をお持ちの淀川水系流域委員会委員の方々、とりわけ利水・水需要管理部会の委員の方々には、失礼な物言いかもしれませんが、木曽川水系の河川問題と、生涯をかけて格闘し、昨年亡くなられた村瀬惣一さんの遺志－高い志に免じてお許し下さい。

2006年10月11日

〒503-0875

岐阜県大垣市田町1-20-1

近藤ゆり子

tel/fax 0584-78-4119

C3046 ¥4400+

9784792380540



1923046044007

定価(本体4400円+税)



719-2 / 10

資源開発の論理

その批判的検討

伊藤達也



成文堂

水資源開発の論理

その批判的検討

719 近藤ゆり子氏

伊藤達也

Logic of Water Resources Development

成文堂

目 次

はじめに

I 水資源問題の捉え方1

1. 水資源問題の現況 1
2. 「水－社会関係」の3類型 4
3. 水の公共支配と水資源問題 9
4. おわりに 13

II 公共事業のサステナビリティ17

1. 問われる公共事業 17
2. 公共事業と財政制約 17
3. 無駄な公共事業をなくす 19
4. 公共事業と環境破壊 23
5. 公共事業の手続き論 25
6. 民主的手続きの確立に向けて 28

III 工業用水の特質と工業立地33

1. はじめに 33
2. 工業用水需給構造の変化 34
3. 工業立地・地域開発政策に伴う地域水環境の破壊 38
4. 工業立地の規定要因としての地域の水環境 41

IV	水資源開発計画の変更をめぐる自治体の対応 ——名古屋大都市圏の場合——	45
1.	名古屋大都市圏の水資源開発と水需要の実態	45
2.	水資源計画における中央政府と地方自治体の役割	48
3.	水余り状況に陥った時の自治体の対応と選択肢① ——部分的な対応——	51
4.	水余り状況に陥った時の自治体の対応と選択肢② ——全体的な対応——	59
5.	自治体による現行対応策の問題点	67
V	木曽川水系フルプラン2004の検討 ——破綻した徳山ダム計画——	77
1.	はじめに	77
2.	徳山ダムの水資源開発目的の変遷	78
3.	今回のフルプラン改正で明らかになった問題① ——水需要予測の問題点——	81
4.	今回のフルプラン改正で明らかになった問題② ——利水安全度の低下問題——	87
5.	94年渇水に対する対応策	95
6.	補論—岩屋ダムの利水安全度が極端に低い理由—	99
VI	渇水対策の選択肢	105
1.	はじめに	105
2.	河川水利システムの形成とその特徴	106
3.	河川水利システムの実際—木曽川水系を中心に—	110

4.	異常渇水対策の選択肢	114
5.	選択の幅を狭めるもの	121
VII	ダムによる水資源開発の論理	127
1.	はじめに	127
2.	ダムによる水資源開発論理の問題点	128
3.	水資源量・水の利用可能量に関する説明論理の 問題点	130
4.	わが国の水資源開発水準に関する説明論理の 問題点	140
5.	建設省のダム建設を推進する説明論理の限界	146
VIII	水資源論における流域圏概念の展開	153
1.	水資源開発と流域圏概念	153
2.	内的統合を目指す流域圏	157
3.	広域利水化に抵抗する流域圏	168
4.	流域圏概念の評価と課題	176
IX	水と地域をつなぐ	187
1.	はじめに	187
2.	農業用水の渇水対応能力と負担問題	188
3.	森林の水源涵養機能と負担問題	193
4.	水と地域をつなぐ	199
	あとがき	205

著者紹介

伊藤達也 (いとう たつや)

1961年 生まれ

1990年 名古屋大学大学院博士課程単位取得満期退学

現 在 金城学院大学現代文化学部国際社会学科教授

専門分野 人文地理学

主な業績

(単著)『検証 岐阜県史問題－なぜ御嵩産廃問題は掲載されなかったのか－』ユニテ, 2005年

(共著)『水資源政策の失敗－長良川河口堰－』成文堂, 2003年

(共編著)『環境問題の現場から－地理学のアプローチ－』古今書院, 2003年

水資源開発の論理－その批判的検討－

Logic of Water Resources Development

2005年10月1日 初版第1刷発行

著 者 伊 藤 達 也

発 行 者 阿 部 耕 一

〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町514番地

発 行 所 株式会社 成 文 堂

電話03(3203)9201(代) Fax03(3203)9206

<http://www.seibundoh.co.jp>

製版・印刷 藤原印刷 製本 佐抜製本

検印省略

☆乱丁・落丁本はおとりかいたします☆

© 2005 伊藤達也 Printed in Japan

ISBN4-7923-8054-5 C3046

定価 (本体4400円+税)

ISBN4-7923-8057-X

C3046 ¥6000E

定価(本体6000円+税)



9784792380571



1923046060007



719-6 / 10

木曽川水系の水資源問題

伊藤達也 [著]

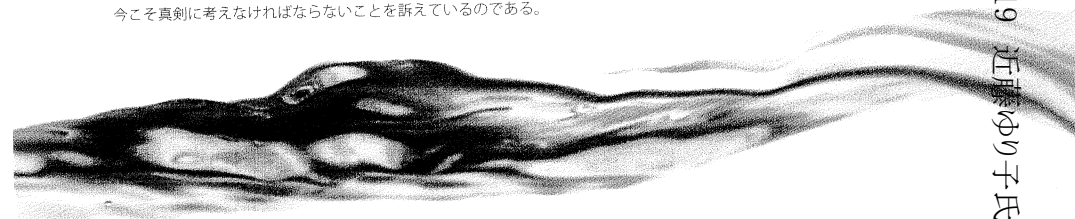


成文堂

今やダム・河口堰建設を支える根拠は大きく後退し、代わって河川に水が流れていること、水の流れを遮らないことが、河川の自然生態系、さらには人間社会において重要であることを、多くの人々が理解するに至っている。

本書で対象とする木曽川水系は、わが国においてまさにそうした変化を体現するテストフィールドとして機能してきた。

1994年に発生した木曽川異常渇水は、わが国の今後の水資源政策のあり方を考えていくための貴重な経験となるべきところが、真摯に受け止めた対策が提起されるに至っていない。木曽川水系に現れている水資源開発・管理の破綻状況は、われわれが、河川とどのように付き合っていくべきかを、今こそ真剣に考えなければならないことを訴えているのである。



719 伊藤達也氏

木曽川水系の水資源問題

流域の統合管理を目指して

伊藤達也 [著] Tatsuya Ito

成文堂

水資源・環境学会叢書 5

目 次

はじめに

A 研究動向1

I. 人文地理学における環境問題研究の動向3

- ① 環境研究と環境問題研究の距離 3
- ② 人文地理学における環境問題研究の現状 4
- ③ 人文地理学における環境問題研究の課題 12
- ④ 人文地理学への環境問題研究の位置づけ 19

II. 水資源研究の動向31

- ① 水資源研究と「水—社会関係」 31
- ② 「水—社会関係」から見た研究動向 32
- ③ 人文地理学における水資源研究 38
- ④ 水資源研究の課題 40
- ⑤ 本書の視点 45

B 木曽川水系の水利システムと水資源問題55

III. 木曽川流域における水利構造の変容と水資源問題57

—高度成長期から低成長期にかけて—

- ① はじめに 57
- ② 水資源開発の進展と都市用水の木曽川進出 60
- ③ 農業用水の対応と河川水利秩序の変化 70
- ④ 水需給の地域的不均衡と水をめぐる地域的対抗関係 82
- ⑤ おわりに 87

IV. 宮田用水土地改良区における水管理構造と水利用形態の変化 93

- ① はじめに 93
- ② 土地改良区の設立と都市化、水利施設の整備 95

- ③ 土地改良区の水管理構造の変化 103
- ④ 末端水管理構造の地域差とその変化 107
- ⑤ 水利用形態の変化と水の有効利用 116
- ⑥ おわりに 122

V. 木曽川下流地域の用排水秩序をめぐる地域対立128

—筏川管理をめぐる—

- ① はじめに 128
- ② 筏川をめぐる用排水調整の成立 129
- ③ 水利対立の発生 140
- ④ 戦後の筏川問題と用排水調整 148
- ⑤ 利水問題の継続と木曽川用水事業による解決 157
- ⑥ 低湿地域の水問題を捉える視点 165

C 検証：長良川河口堰・徳山ダム問題179

VI. 岐阜県における水資源開発と水道整備181

- ① 河川総合開発から水資源開発へ 181
- ② 岐阜県における水道整備 189
- ③ 土岐川の水源放棄と東濃用水事業の発足 194
- ④ 木曽川総合用水事業と可茂用水道事業 199
- ⑤ 各務原市の地下水利用 203

VII. 長良川河口堰問題の沿革209

- ① 長良川河口堰計画と地元住民の反対運動 209
- ② 建設着工と全国的な反対運動の発生 219
- ③ 河口堰本体の建設 224
- ④ 河口堰の運用開始と新たな問題の発生 226

VIII. 徳山ダム問題の沿革231

- ① 徳山ダム計画の始まり 231
- ② 徳山村の廃村 235
- ③ 水余りと徳山ダム建設反対運動 240

- ④ ダム建設をめぐる攻防と建設差止め裁判 246
- 補論 徳山ダム公聴会での意見申し立て（1996年6月29日） 249

IX. 長良川河口堰問題の系譜—文献解題—255

- ① はじめに 255
- ② 河口堰計画の発表から建設着工まで 256
- ③ 新しい反対運動の発生 257
- ④ 研究者による河口堰問題の追跡とその報告 259
- ⑤ 長良川河口堰の建設推進を主張する文献 263
- ⑥ 論点は何か、判断するのは誰か 265
- 補論 その後の長良川河口堰問題 269

X. 長良川河口堰と裁判279

- ① 長良川河口堰問題と裁判 279
- ② 支出差止め訴訟の論理と判決の論理 283
- ③ 環境問題の解決手段としての裁判 289
- 補論 判決後明らかになった事実 292

D 検証：渇水問題と水資源開発299

XI. 「木曽川渇水脆弱論」批判①—「補給日数」概念の矛盾—301

- ① はじめに 301
- ② 水資源開発施設としての長良川河口堰の特徴 302
- ③ 「ダム補給日数」概念の矛盾 308

XII. 1994年木曽川渇水の実態321

- ① はじめに 321
- ② 渇水の自然的背景と水源確保 321
- ③ 水不足の影響と対策 326
- ④ 渇水対策の中で発生した問題 327

補論① 渇水の教えるもの 333

補論② 水資源開発と都市社会のあり方の再考を 335

A 研究動向

I. 人文地理学における環境問題研究の動向

II. 水資源研究の動向

XIII. 長良川河口堰の渇水対策機能—94年渇水に際して—338

- ① はじめに 338
- ② 建設省等の説明による長良川河口堰の効果 338
- ③ 建設省等の論理の問題点 340
- ④ 渇水対策における長良川河口堰の位置づけ 343
- 追記 345

XIV. 「木曽川渇水脆弱論」批判②348

—「渇水対策容量」概念の混乱—

- ① はじめに 348
- ② 徳山ダムに設定された「渇水対策容量」の理解 349
- ③ 「不特定容量」概念の誤用 352
- ④ 「渇水対策容量」とは何か 358
- ⑤ 「渇水対策容量」の受益者と費用負担者 361
- ⑥ おわりに 365

あとがき 369

